



行政から
市長 椎名 千収

市民の皆様に初春のお慶びを申しあげます。本年も職員一同、市民の皆様の幸せ度の向上に向けて頑張つてまいります。

さて、世界中いたるところテロリズムが横行し、国内においても凶悪な犯罪が日常茶飯に新聞紙面を埋めています。近隣でも幼い子どもが犠牲になった事件を初め、私たちの身の回りに起こった事件も少なくありません。世界的な金融の混乱が引き金となつた不況が年を越して、私たち市民の生活にどのような影響をもたらすのか予断を許しません。平成二十一年の社会情勢は大変厳しいと認識しています。

このような時代にこそ、私たちはしつかりと足元を固め、自らの努力を惜しむことなくまちづくり、地域づくりに取り組みたいと思っています。

四月には新入職員が五名入つてまいります。若い力に大いに期待しています。一方、退職予定者が二十五名ですから、職員数は今年も

行政の集中と 地区中心型のまちづくり

二十減少し正職員が初めて五百人を切ります。

これは地方行政が求められる「効率化」を目論んだものではあります、それぞれの部署に配置される職員は年々小人数になります。

多くの方々から合併をして、役場に居た職員が少なくなり寂しくなつた」と言われます。本当にそうだと思います。効率性を求めることは間違いではないとしても、効率さえ良ければ総て良しとも言えません。

合併以前それぞれの役場は「地域行政の中心」であつたと同時に、「地域コミュニティーの中心」でもありました。役場を中心とした人の流れもありました。そのような地域交流の場としての役割をもう一度取り戻したいと思います。そしてそれぞれに長い歴史を持つた地域コミュニティーの温もりを取り戻し、新たな賑わいを創造しなければならないと思います。

市民の高齢化が進む一方で身近な商店が次々と閉店し、食料を初め

末尾になりましたが、安心して暮らせる地域に病院は不可欠です。成東病院の職員も精一杯頑張っていますので、市民の皆様と力を合わせて地域医療を守つてしまいましょう。